

全学連支持会議 日共民青の汚ない誹謗中傷について

昨日、全学連支持会議の諸君は「生協民主化」を掲げ、その内容はデマと中傷だけという恥すべきビラを出した。向題は「民主化」を叫ぶことではなく、その内容にあるはずだ。だが、生協運動に対して、何の政策も方針も持たない彼らは、それを裏書きするかのさうにビラ全面をデマと中傷で埋めねばならなかった。我々はそれのデマと中傷に一つ一つ反論しながら、突如として彼らが「生協問題」をとりあげた意図を明らかにしてゆこう。

一、生協運営指名の経緯について

生協総代選挙規定第8条で、「選挙は組合員の中から公募し、理事長がこれを指名する」となっている。生協では5月15日に公募をしめきり、16日の理事会で指名に関する報告と承認を経て、運営に名を提出した。全学連支持会議の諸君は、この指名からそれた腹いせに、とんでもないデマを流しはじめたのである。だから、いた、一年間「生協の金が全共斗に流れている」というデマをふりまく以外に生協に対して何の關係も持たなかった諸君が、生協総代選挙を前にして、突然「熱心」になったからといって、責任ある運営に指名できなかったらうか。彼らは中立候補者でもない者を選出したといっているが、選出されたのはすべて立候補者である。この問題に因する彼らの疑問について、19日5時に会合することになったのに、彼らは遂に現われなかった。そして一方的にビラを出したというわけである。

また彼らは「選挙の中に暴力学生がいる」と名でして書いているが、我々は少なくとも、マスコミ流の全共斗「暴力学生」というレッテルの観点は持ちあわせていない。理事長は選挙選出について何も知らされていなかったというのもデマである。16日の理事会に理事長は出席しており、途中用事で中座する前に、「運営指名」提案の内容について確認しているのである。後刻、全支諸君に聞かれたとき、選挙の一人一人の名前を覚えていなかったとしても、それは「驚く」にはあたらない。例のころでは、彼らは「理事長が昨日、定款に違

反して総代選挙を行なわなかった」といっているが、全く言いたい放題である。理事会は昨年の状況の中で選挙を実施しえないと判断し、定款第44条3項の「総代任期延長規定」に従って選挙を中止したのである。しかも、この件について全学連支持会議諸君が質問に来た時、定款を見せて説明し、彼らは納得して帰っているのである。何といういいがかりだろうか。

2、全支「民青による組織的乗取りを粉砕しよう」というようなデマと中傷を流したあと、彼らは、「生協の全共斗一派による私物化」と結論を下す。生協のみならず、全共斗諸君たちでさえあ、けにとられるような結論だ。彼らの意図は「きりしている。全共斗」思↓それに「私物化」される生協「思↓全学連支持会議による「民主化」書という公式を創り上げようとしているのである。

そして、彼らは自己の物量を総動員して、生協運動の政策や方針とは無縁のところまで、生協の組織的「乗取」をしようとしている。奇妙なことに、全国大學生校連合会（日共「民青系」）は、市大生協を「全支連納」の名目の下に、昨年「取引停止処分」にしておきながら、この3月から、「勝ち」に取引を再開しているのである。すでに全支諸君による「乗」とり「が前提とされているのであるのか。もしそうであれば、その「期待」は、生協に結果する組合員の手によって打ち砕かれるであろう。

本日1時

全学総決起集会

(210教室)

全学連の組合員諸君の集まり

ことを語る